

たんさく 77年前戦争はすぐそばにあった！③

特攻艇「震洋」格納壕跡

人間魚雷「回天」や爆弾を積んだ戦闘機で敵艦に体当たりする「神風特攻隊」を聞いたことがあると思います。特攻艇「震洋」は、ベニヤ板で作ったモーターボートに250kg爆弾をつけ、人が操縦し敵艦に体当たりする兵器です。

そのため、米軍からSuicide Boat(自殺ボート)と呼ばれていたそうです。大湊の海軍工作部でも生産されており、全国で総数6,000艇余りが生産されたと言われています。

下北の格納壕は、本土決戦の際に利用するため掘られていましたが、掘削途中に終戦を迎えたため未完成です。

全国各地に、震洋を運用する部隊があり、四国の最南端にある高知県土佐清水市などに、実際に運用されていた格納壕跡が残っています。

下北の格納壕の掘削にも、徴用工が駆り出されていたそうです。



写真は、掘削跡の一つで、遠目から見ても分かる穴が開いています。写真の掘削跡のほか、それらしきものが何か所か見受けられます。他にも岩肌がツルツルしている箇所があり、当時の作業で削られたものかもしれません。

木野部トンネル跡地の碑

木野部と書いて、きのつぶと読みます。アイヌ語が由来だと思われ、語源についてはわかりませんでした。木野部トンネルは、大間鉄道最大の難所と言われた木野部峠を貫くトンネルです。大畑側から約430mの第一木野部トンネルと約850メートルの第二木野部トンネルの二つのトンネルがあります。佐藤さんによると、トンネル工事では多くの徴用工が工事の過酷さから命を落としたそうです。

調べてみると、北海道から移送されてきた「タコ部屋労働」と呼ばれる半ば、人身売買的に買われ働かされていた人々も工事に携わっていました。その人たちに地域の人が食べ物やあけたり、逃がすのを手助けしたりという話や、逃亡したが捕まり見せしめのため橋に括り付けられ人々の前で殴打されているところを目撃した。という話が残っています。

現在、木野部トンネルは利用されていませんが、佐藤さんによると、戦後国道が開通するまで、地域住民の生活道路として利用され、戦後の下北発展に大きく寄与しました。



木野部トンネル跡の碑、佐藤さんによると丁度下をトンネルが通っていたそうです。現在は封鎖され第一、第二ともに入ることができませんが、下北の交通を支えた記録は碑としてのこされています。



講師を務めていただいた
佐藤みどりさん

「ハンガー・フリー・ワールド・回収キャンペーン」報告

2021年12月20日〜2022年5月31日の取り組みでは、729件のご協力があり、換金総額は1,187,110円でした。ご協力いただいた組合員の皆様に感謝申し上げます。

ハンガー・フリー・ワールドによる支援活動

皆さまからいただいた物品は、国内で換金し寄付金となります。

バングラデシュ、ウガンダ、ベナン、ブルキナファソで飢餓に苦しむ人々の自立を支援する栄養改善、教育、保健衛生などの活動に活用します。



●誰からも奪われない、奪わない
強靱なフードシステムをつくる活動支援



●相互扶助で食卓の笑顔を育み、
守る地域をつくる活動支援



ハンガー・フリー・ワールドの担当者様へ
お疲れ様です。生協の共同購入からこの活動を知りました。昔から外国が好きで、学生時代は語学や医療への勉強に励みました。今は男児二人の母親となり、子どもたちの食事に驚く毎日です。子どもたちにご飯を食わせてあげたいという思いは世界共通ですよ。少しですがお役にたてたいと思います。



回収封筒には、コープあおもり組合員さんからの応援メッセージが、たくさん添えられていたそうです。「特定非営利活動法人ハンガー・フリー・ワールド」からお礼が届きました。今年度も12月より回収キャンペーンが始まります。ご協力よろしくお願いいたします。